

インフラメンテナンス国民会議 近畿本部 第 1 回フォーラム 開催結果

開催概要

日時：平成 29 年 1 月 31 日(火) 14:00～16:30

参加者：地方自治体※：7 府県、2 市町村 (23 名)

※ 政令市は府県にカウント、滋賀県建設技術センターは滋賀県と同一とカウント

民間企業等：54 社 (うち、協会等 7 団体を含む) (96 名)

事務局 (国土政策研究会) (10 名)

国土交通省：総合政策局、近畿地方整備局 (7 名)

メンター：2 名

出席者合計 138 名

フォーラムの開催結果

- ・ 関西大学の坂野教授より基調講演「オープンイノベーションによる技術開発促進～東大阪に於けるマッチング事例～」をいただき、新たな技術開発の背景にはニーズとシーズのマッチングに加えて検証試験や現地での試行が重要であったという経験をふまえた講演があった。
- ・ 今回の班別討議を実施するにあたり、施設管理者が抱える維持管理の課題を事前に収集し、「橋梁・コンクリート構造物点検関係」、「下水道関係」、「道路法面関係」、「除雪機械関係」の 카테고리で 8 テーマについて班別討議を行うこととした。
- ・ 班別討議では、行政の抱える施設管理のニーズについての概要説明を行った後、課題解決に向けた意見交換を行った。
- ・ その結果、行政のニーズに埋もれている課題や社会的な背景など、様々な意見が出され、予定時間を超過する班もあった。
- ・ 今後は、次回のフォーラムに向け、各テーマにおける課題の整理や絞り込みをする予定。
- ・ 最後に、関西大学の坂野教授からは、「非常に盛況で活発なフォーラムであった。」とのコメントとともに、「施設点検においては、何かあった時に見てなかったは許されないので、見られない箇所も何とかして見ることが必要」であることや「ニーズとシーズのマッチングには長い時間が必要で、これを支えるのは人材資源 (人財) であり、今後もこの活気を持続することが大切と思う。」とのコメントもいただき、インフラメンテナンスの各課題解決に向け、着実に機会を設けていくことを確認しました。

班別討議の概要

討議テーマ1

テーマ名	橋梁①「橋梁点検の効率化技術」
課題提供者	阪南市
討議内容	予算や接近困難箇所など様々な問題提起がなされ、点検カメラやロボットなどの技術について議論した。また、メンテナンスの効率的な手法の1つとして、点検時の応急措置や応急補修が有効であるとの意見も出された。

討議テーマ2

テーマ名	橋梁②「道路橋点検における近接目視」
課題提供者	公益財団法人滋賀県建設技術センター
討議内容	予算や接近困難箇所など様々な問題提起がなされ、近接目視とは何かというところから議論し、赤外線、画像などを用いた手法による一次スクリーニング技術の確立などの意見も出された。

討議テーマ3

テーマ名	構造物①「歩道橋・地下道・アンダーパスにおける化粧類裏の近接目視」
課題提供者	大阪市
討議内容	接近目視の困難箇所について、手間とコストをかけない手法のニーズが提起され、ボアカメラやセンサーなどの技術や課題について議論した。また、建築物も同じ課題を抱えていると考えられ、他分野の動向も探る必要があるのではないかと意見も出された。

討議テーマ4

テーマ名	構造物②「共同溝下水道専用洞道の近接目視」
課題提供者	大阪市
討議内容	下水洞道の点検については、目視点検による危険性やリスクの議論を行うとともに、カメラやロボット技術の発掘や点検時の安全性の確認技術についても、検討すべきとの意見が出された。

討議テーマ5

テーマ名	下水関係①「下水道管渠の点検診断の効率化技術」
課題提供者	滋賀県
討議内容	圧送管(φ300)における点検技術が自治体ニーズとして提起され、点検実態や既存技術の情報交換が行われた。有効な技術としては、管肉厚計測技術などが議論された。また、事故事例の収集についても意見が出された。

討議テーマ6

テーマ名	下水関係②「雨天時浸入水対策の定量的な効果検証手法」
課題提供者	奈良県
討議内容	雨天時浸入水対策の費用対効果について議論し、個別対策の効果測定の手法など調査を深める意見が出された。

討議テーマ7

テーマ名	道路法面危険把握
課題提供者	奈良県
討議内容	広大な法面・岩壁の管理においては、点検箇所への優先度づけが必要であるとの認識のもと議論し、コストを見据えて点検を進めるために如何に少ないデータで危険把握を行うための課題が出されるとともに、他の自治体等が抱える課題の事例収集についても意見が出された。

討議テーマ8

テーマ名	除雪機械関係
課題提供	滋賀県
討議内容	雪寒用建設機械等の非稼働期の有効活用について自治体よりニーズが提起され、施設管理者から事例紹介をはじめ、トータルコストの縮減や機種選定及び調達方法等に関する議論をした。今後、検討すべき課題として、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する制限や、コスト縮減効果、機種選定やオペレータの育成支援等の意見が出された。



班別討議の様子